Lee Ufan

展覧会歴 | List of Exhibitions

主な展覧会

1967	「李禹煥」サトウ画廊(東京)
1968	「韓国現代絵画展」東京国立近代美術館 [ex.cat.]
1969	「第5回国際青年美術家展」(東京)
	「第9回現代日本美術展」(東京)[ex.cat.]
	「現代美術の動向」 京都国立近代美術館 [ex.cat.]
	「第10回サンパウロ・ビエンナーレ」(ブラジル)[ex.cat.]
1970	「1970年8月: 現代美術の一断面」 東京国立近代美術館 [ex.cat.]
1971	「李禹煥」 ピナール画廊 (東京) [ex.cat.]
	「第7回パリ・ビエンナーレ」(フランス) [ex.cat.]
1972	「第8回東京国際版画ビエンナーレ展」[ex.cat.]
	「第1回ナポリ国際美術展」(イタリア)
1973	「李禹煥」東京画廊 [ex.cat.]
	「第11回現代日本美術展」(東京)[ex.cat.]
	「第12回サンパウロ・ビエンナーレ」 (ブラジル) [ex.cat.]
1974	★「日本ー伝統と現代」 デュッセルドルフ市立近代美術館 (ドイツ) [ex
	cat.]
	「ルイジアナの日本」ルイジアナ近代美術館(デンマーク、フムレベック
	[ex.cat.]
1976	「第2回シドニー・ビエンナーレ」(オーストラリア)[ex.cat.]
1977	「李禹煥」東京画廊 [ex.cat.]
	「ドクメンタ 6」(ドイツ、カッセル) [ex.cat.]

李の作品は、「描く」ということと「書く」ということの両義性を 土台にして成立しているということである。 点や線は、「描く」という意識と「書く」という意識の微妙で しかも際どい均衡の産物である。 — 中原佑介

『李禹煥』東京画廊、1977年、p. 1

「李禹煥」 ルイジアナ近代美術館 (デンマーク、フムレベック) [ex.cat.] 1978 「李禹煥: 点から、線から」 デュッセルドルフ市立近代美術館 (ドイツ) [ex.cat.] 「第11回東京国際版画ビエンナーレ展」[ex.cat.] 1979 「日本現代美術」 ストックホルム近代美術館 (スウェーデン) 「李禹煥」東京画廊、ギャラリー上田 (東京)[ex.cat.] 1980

一回的な制作のテンションと繰返しの構成的原理、 行為の瞬間的自由とその全体を規制するきびしい倫理的秩序、 表現における空間的な対比・均衡の形成と 時間的な持続・反復の構造といった二面性が、 絶えずからみ合いつつこの作家の仕事に貫流しているのである。 乾 由明

これらの作品は、表面的な様式の上からは、 まえにもまして余白を多くのこした東洋の伝統的絵画に 類似したものとして見られるかもしれない。 だがそれにもかかわらず、 これほど東洋的精神主義から遠い作品はないだろう。 李禹煥の絵画は、気合いのこもった点や線の表現ではなく、 一回的な行為のきわめて明晰で、 画然とした関係として実現したものであり、 その点でまことに論理的な仕事にほかならないのである。 - 乾 由明

「李禹煥の絵画」、『李禹煥』東京画廊、東京:ギャラリー上田、1980年、p. NA

1981 ★ 「日本現代美術展 70年代日本美術の動向」 韓国文化藝術振興院 美術 会館 (ソウル) [ex.cat.] 「現代美術の動向Ⅲ 1970年以降の美術:その国際性と独自性」東京都 1984

美術館 [ex.cat.]

1985 「現代美術の40年: 新館開館10周年記念」 東京都美術館 [ex.cat.] 1986 ★ [日本現代美術 | 台北市立美術館 (台湾) [ex.cat.]

★ 「前衛芸術の日本 1910-1970」 ポンピドゥー・センター (フランス、パリ) [ex.cat.]

1987 「もの派とポストもの派の展開」西武美術館 (東京)[ex.cat.]

「李禹煥展~感性と論理の軌跡~」 岐阜県美術館 [ex.cat.] 「李禹煥:エクス・オリエンタル」現代美術パビリオン (イタリア、ミラノ) 「もの派 | ローマ現代美術館 (イタリア) [ex.cat.]

1989 ★「アート・エキサイティング '89 -現在を超えて-」埼玉県立近代美術 館、クイーンズランド・アートギャラリー (オーストラリア、ブリスベン)[ex.

> ★ 「第20回ミデルハイム・ビエンナーレージャパン」(ベルギー、アントワー プ) [ex.cat.]

★ 「ジャパン '89| ゲント市立現代美術館 (ベルギー) [ex cat] 「李禹煥」ハラ ミュージアム アーク (群馬)[ex.cat.]

「セブン・アーチスツ:今日の日本美術 | サンタモニカ美術館 (米国、カリフォ ルニア州ロサンゼルス) [ex.cat.]

「自然と共に:韓国の現代美術 | テート・ギャラリー・リバプール (英国)

「李禹煥」神奈川県立近代美術館、鎌倉 [ex.cat.]

韓国からも日本からも、 私の移民性ボヘミアン性を指摘されることがある。 ところで私自身はただ自由を求める風来坊にすぎぬ。 が共同体は私を脱走者に仕立てたり 他方からは侵入者に見なしたがる。 どちらにしても内側の者として受け入れるには抵抗感があるようだ。 - 李 禹煥 |

『LEE UFAN』東京:都市出版、1993年、p. 34

李は表現上の遷移はあれ、その芸術観、作品観は 本質的にはさして変わることはなかった。にもかかわらず、 時に彼の言動が"情況的"にならざるをえなかったのは、 それが日本の当時の情況が忘却し欠落していた観点を 鋭く突くことになったからであった。 当時というのは60年代末から70年代初頭にかけて。 すなわち李が"理論的支柱"になったといってよい 「もの派」の時代のことである。 — たにあらた

わたしが知る李禹煥の激越さは、 言葉による、抑制されたものでしかないが、 いつでも火を噴きそうになっているのが感じられる。 それは眼前に行われている世界秩序、日本と韓国、 やがては中国をめぐって勢力圏が編成される 世界秩序の転倒の枠内にある。 — ミシェル・ニュリッザニー

「李禹煥 ひとつの開示」 長谷川泰、Ko Lïn訳、『LEE UFAN』 東京:都市出版、1993年、p. 231

李禹煥は石を組む者、「造園家」ではなく、 自己の芸術中に情動を排し、神秘主義的傾向を避けることに 腐心する、国際舞台における有数の現代芸術家である。 - ミシェル・ニュリッザニー

「李禹煥 ひとつの開示」 長谷川泰、Ko Lïn訳、 『LEE UFAN』 東京:都市出版、1993年、p. 234

李が西欧的な理性と東洋的な自然の対立葛藤に身をさらし、 やがてその二元論の克服を制作活動に課していったのも、 欧米流のモダニズムに浸食された 日本美術の現実に直面したからだ。 — 三田晴夫

「透徹した世界を成就 | 李禹煥展 | 、『毎日新聞 | 1993年4月28日

「李禹煥」韓国国立近現代美術館 (果川館)[ex.cat.] 「李禹煥: ポッシブル・インフィニティ」 ムディマ財団 (イタリア、ミラノ) [ex.cat.]

★ 「戦後日本の前衛美術展:空へ叫び」横浜美術館(神奈川)、グッゲンハ イム美術館ソーホー (米国、ニューヨーク)、[1995] サンフランシスコ近代 美術館 (米国、カリフォルニア州) およびイェルバ・ブエナ・ガーデンズ視 覚芸術センター (米国、カリフォルニア州サンフランシスコ) [ex.cat.]

「1970年-物質と知覚:もの派と根源を問う作家たち」岐阜県美術館[ex.

「メイド・イン・フランス 1947-1997」 ポンピドゥー・センター (フランス、 1997 パリ) [ex.cat.] 「李禹煥全版画展 1970-1998」三鷹市美術ギャラリー (東京)、札幌 1998

芸術の森美術館 (北海道)、伊丹市立美術館 (兵庫)、足利市立美術館 (栃木)、[1999] 新潟市美術館 [ex.cat.]

「第3回上海ビエンナーレ」(中国) [ex.cat.] 「第3回光州ビエンナーレ」(韓国)[ex.cat.]

作品は、自己と他者が相互媒介を行う 飛躍の場でなければならない。■ 作品は、外界と内面の刺激的な出会いの場所でありたい。 モダニズムに見られるような、■

自己の再現化である閉じた完結体を作ることではなく、 自己と他との関係化による開かれた場所を ■

アレンジメントすることが私の仕事である。-

-『余白の芸術』 東京 : みすず書房、2000年、p. 6

-つの点を打つと、がぜん辺りが動き出し、 紙面の上空低く生気の漲る空気が漂う。 この初々しいイリュージョンの体験は、 ついにぼくを画家にした。——

『余白の芸術』東京: みすず書房、2000年、p. 326

2001 「李禹煥: 絵画1973年から2001年」 ボン市立美術館 (ドイツ) [ex.

> 「センチュリー・シティ| テート・モダン (英国、ロンドン) [ex.cat.] 「もの派」 ケトルズヤード (英国、ケンブリッジ) [ex.cat.]

李 禹儉

アジア的なアクション・ペインティングの形態という点で 表出的であったり、冷ややかに抑えられていたりしても、 李禹煥の芸術は、いつでも統御されている。(中略) 韓国と日本の伝統に深く根ざす、 このカントとハイデガーの崇拝者は、世界を包括する芸術言語、 その中心的な概念は「無時間性」であるという 芸術言語を求めている。 — トーマス・クリーマン

"Like a Bell Echoing in the Void" [虚空に響く鐘のように], 水沢勉訳, General Anzeiger, June

「第4回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(オーストラリア、ブリスベン)

2003 「李禹煥: 出会いを求めて」 サムスン近代美術館 (韓国、ソウル) [ex. cat.1

「ハピネス:アートにみる幸福への鍵」 森美術館 (東京) [ex.cat.]

「琳派: Rimpa」東京国立近代美術館 [ex.cat.] 「李禹煥: 余白の芸術」 横浜美術館 (神奈川) [ex.cat.]

「李禹煥」 クイーンズランド・アートギャラリー (オーストラリア、ブリス

「李禹煥」サン=エティエンヌ近代美術館 (フランス)

「もの派-再考」国立国際美術館 (大阪) [ex.cat.]

「第6回光州ビエンナーレ」(韓国)[ex.cat.]

「第52回ベネチア・ビエンナーレ」(イタリア) [ex.cat.] 「もの派ってなに?」東京画廊+BTAP(中国、北京)[ex.cat.]

「エラスティック・タブー:韓国現代美術のなかで クンストハレ・ウィーン (オーストリア)[ex.cat.]

多くの執筆者は、もっぱら伝記的な事実に依拠した表現によって 作品を特殊にアジア的なものとして整理することに 力点を置いているのである。

こうした議論は、ふたつの傾向から生まれてくる。 ひとつは、ヨーロッパの執筆者たちが、大まかな振り分けで

― かれらは少なくともそのように理解してしまうのであろうが ―

李禹煥の芸術的な仕事の特異性を 典型的な「極東的なるもの」として説明してしまう傾向である。

こうしたやり方で、かれらは自分の視点からみた

異国的なものの圏域に李の作品を置いてしまい、 先入観なしに正対することを避けてしまうのだ。

もうひとつは、日本や韓国の執筆者たちが、 もちろん別のモチベーションによるものとはいえ、

李が東アジアの伝統に根差していることを強調する傾向である。

ジルケ・フォン・ベルスヴォルト=ヴァルラーベ

『李禹煥 他者との出会いー作品に見る対峙と共存』水沢勉訳、東京:みすず書房、2016年、p. 9

「李禹煥」ベルギー王立美術館 (ブリュッセル)[ex.cat.] 「李禹煥:ダイアローグ」国立アジア美術館(ドイツ、ベルリン) 「李禹煥:マーキング・インフィニティ」ソロモン・R・グッゲンハイム美

術館 (米国、ニューヨーク) [ex.cat.] 「横浜トリエンナーレ2011」(神奈川) [ex.cat.]

「第54回ベネチア・ビエンナーレ」(イタリア) [ex.cat.]

李の成熟した"法悦のミニマリズム"は、

トランスナショナルな近年の美術史の傾向を明白に表しつつも、 それとは別に、彼の作品にあるありのままの厳格さや官能性は、 想像という問題をより直接的に主張した。

- アレクサンドラ・モンロー

"Stand still a Moment," in Lee Ufan: Marking Infinity, New York: Solomon R. Guggenheim Museum, 2011, p. 30,

「太陽へのレクイエム:もの派の美術」ブラム&ポー(米国、カリフォルニ ア州ロサンゼルス) [ex cat]

★ 「Tokyo 1955-1970:新しい前衛」 ニューヨーク近代美術館 (米国) [ex.

「李禹煥: 不協和音」キャピトール (フランス、アルル) [ex.cat.]

★ 「Re: Quest-1970年代以降の日本現代美術」 ソウル大学校美術館 (韓国)[ex.cat.]

「プリマ・マテリア」 プンタ・デラ・ドガーナ (イタリア、ベネチア) [ex.cat.]

「李禹煥-ヴェルサイユ」ヴェルサイユ宮殿 (フランス) [ex.cat.]

· コリアン・ビューティー:2つの自然」韓国国立近現代美術館(ソウル館) 「アザー・プライマリー・ストラクチャーズ」 ジューイッシュ・ミュージアム (米 国、ニューヨーク) [ex.cat.]

「シンプルなかたち:美はどこからくるのか」 ポンピドゥー・センター・メッ ス (フランス)、[2015] 森美術館 (東京)[ex.cat.]

「リー・ミンウェイとその関係」森美術館 (東京)[ex.cat.] 「第56回ベネチア・ビエンナーレ」(イタリア)[ex.cat.]

《関係項》は、決定的な瞬間に達するまで きわめて集中度を高めたアクションの直接の結果である。

-「響き合う空間」水沢勉訳、『李禹煥美術館』香川:福武財団、2015年、p. 74

李が通常使用している四角形のカンヴァスの比率は、 フランスの伝統的な人物画用のFサイズに対応するものである。 この点において、カンヴァスと画家の身体の相互関係を はっきりと強調している。

ジルケ・フォン・ベルスヴォルト=ヴァルラーベ

- ジルケ・フォン・ベルスヴォルト=ヴァルラーベ

「響き合う空間」水沢勉訳、『李禹煥美術館』香川:福武財団、2015年、p. 76

2016 「プロセスがフォームになるとき: 単色画と韓国抽象画」 アンパン男爵邸 (ベルギー、ブリュッセル) [ex.cat.]

2017 「李禹煥:予感」オリヴィエ・ドゥブレ現代創作センター(フランス、トゥー ル)[ex.cat.]

「李禹煥」河正雄美術館(韓国、光州)

2018

「第14回リヨン・ビエンナーレー(フランス)

★「ジャパノラマ:1970年以降の新しい日本のアート」 ポンピドゥー・セ ンター・メッス (フランス) [ex.cat.]

「李禹煥:関係項-舞台」サーペンタイン・ギャラリー (英国、ロンドン) 「李禹煥:オープン・ディメンション」ハーシュホーン美術館・彫刻庭園 (米国、ワシントンD C)

「李禹煥」ディア・ビーコン(米国、ニューヨーク) 「李禹煥 時間に生きる」 ポンピドゥー・センター・メッス (フランス)

「挑戦する魂:イヴ・クライン、李禹煥、丁乙」 上海当代芸術博物館 (中国) [ex.cat.]

主なコレクション

東京都美術館

ブルックリン美術館(米国、ニューヨーク) ポンピドゥー・センター(フランス、パリ) ディア・ビーコン(米国、ニューヨーク) クレラー・ミュラー美術館(オランダ、エーデ) クンストハレ・チューリッヒ (スイス) ボン市立美術館(ドイツ) サムスン美術館リウム(韓国、ソウル) ロサンゼルス・カウンティ美術館(米国、カリフォルニア州) 森美術館(東京) 東京都現代美術館 ニューヨーク近代美術館(米国) 韓国国立近現代美術館 京都国立近代美術館 東京国立近代美術館 ナショナルギャラリー (ドイツ、ベルリン) ソロモン・R・グッゲンハイム美術館(米国、ニューヨーク) シュトゥットガルト州立美術館(ドイツ) シュテーデル美術館 (ドイツ、フランクフルト) テート (英国、ロンドン)

Selected Exhibitions

1967	Lee Ufan, Sato Gallery, Tokyo, Japan
1968	Contemporary Korean Painting, The National Museum of Modern
	Art, Tokyo, Japan [ex.cat.]
1969	5th International Young Artists exhibition, Tokyo
	9th Contemporary Art Exhibition of Japan, Tokyo [ex.cat.]
	Trends in Contemporary Japanese Art, The National Museum of
	Modern Art, Kyoto, Japan [ex.cat.]
	10th São Paulo Biennial, Brazil [ex.cat.]
1970	August 1970: Aspects of New Japanese Art, The National Museum
	of Modern Art, Tokyo, Japan [ex.cat.]
1971	U-fan Lee, Pinar Gallery, Tokyo, Japan [ex.cat.]
	7th Paris Biennale, France [ex.cat.]
1972	8th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo, Japan [ex.
	cat.]
	First Naples International Art Exhibition, Italy
1973	Lee Ufan, TOKYO GALLERY, Japan [ex.cat.]
	11th Contemporary Art Exhibition of Japan, Tokyo, Japan [ex.cat.]
	12th São Paulo Biennial, Brazil [ex.cat.]
1974	★Japan: Tradition und Gegenwart (Japan: Tradition and the
	Present), Städtische Kunsthalle Düsseldorf, Germany [ex.cat.]
	Japan at Louisiana, Louisiana Museum of Modern Art, Humlebæk,
1976	Denmark [ex.cat.]
1977	2nd Biennale of Sydney, Australia [ex.cat.]
19//	Lee U Fan, TOKYO GALLERY, Japan [ex.cat.]
	Documenta 6, Kassel, Germany [ex.cat.]

Lee's work takes its place resting upon the foundation of the duality of delineation and writing. The points and lines are the result of a fine and delicate balance between the consciousness of delineation and writing.

— Yusuke Nakahara

Lee U Fan, TOKYO GALLERY, 1977, p. 13. (existing translation)

1978	Lee Ufan, Louisiana Museum of Modern Art, Humlebæk,
	Denmark [ex.cat.] Lee U-Fan: From Point—From Line, Städtische Kunsthalle Düsseldorf, Germany [ex.cat.] 11th International Riennial Exhibition of Prints in Tokyo Japan [ex.
	Lee U-Fan: From Point—From Line, Städtische Kunsthalle
	Düsseldorf, Germany [ex.cat.]
1979	11th International Riennial Exhibition of Prints in Tokyo Japan (ex

cat.l Contemporary Art in Japan, Moderna Museet, Stockholm, Sweden

Lee Ufan, TOKYO GALLERY, Gallery Ueda, Tokyo, Japan [ex. 1980

There is something double that always runs through the work of this artist, endlessly involved as he is in the tension of a non-repeatable work plus the compositional principle of repetition,

the momentary freedom of the act plus a strict logical order that controls the whole, the formation

of a spatial balance of opposites

in expression plus a composition

of temporal continuity and repetition. — Yoshiaki Inui

of the surface style, these works might be considered analogous to traditional Oriental paintings in their increasing use of empty space. But even so, these works could not be farther from Oriental spiritualism. Lee Ufan's paintings are not the expression of points or lines pregnant with feeling, but make their appearance as an extremely lucid and distinct relationship among unrepeatable actions, and in that point the work could not be more logical.

From that point from the standpoint

- Yoshiaki Inui

1981

1984

1985

1986

"The Painting of Lee Ufan," in Lee Ufan, Tokyo Gallery, Tokyo: Gallery Ueda, 1980, p. NA. (existing translation)

> ★Japanese Contemporary Art in 70's, Korean Culture and Arts Foundation, Art Center, Seoul, South Korea [ex.cat.] Trends of Contemporary Japanese Art 1970-1984: Universality/ Individuality, Tokyo Metropolitan Art Museum, Japan [ex.cat.] 40 Years of Japanese Contemporary Art: 10th Anniversary New Building, Tokyo Metropolitan Art Museum, Japan [ex.cat.] ★Contemporary Japanese Art. Taipei Fine Arts Museum. Taiwan ★Japon des Avant-Gardes 1910-1970, Centre Pompidou, Paris, France [ex cat]

1987 Mono-ha and Post Mono-ha, Seibu Museum of Art, Tokyo, Japan [ex.cat.]

1988 Lee Ufan: Traces of Sensibility and Logic, The Museum of Fine Arts, Gifu, Japan [ex.cat,] Lee Ufan: Ex Oriente, Padiglione d'Arte Contemporanea, Milan,

Italy [ex.cat.] Mono-ha: La scuola delle cose, Museo Laboratorio di Arte Contemporanea, Rome, Italy [ex.cat.]

★Japanese Ways, Western Means: Art of the 1980s in Japan (Art Exciting 89 - Beyond the Present), The Museum of Modern Art, Saitama, Japan, Queensland Art Gallery, Brisbane, Australia [ex.

★20ste Biennale Middelheim – Japan, Antwerp, Belgium [ex.cat.] ★Japan '89, Municipal Museum of Contemporary Art, Ghent, Belgium [ex.cat.]

Lee Ufan, Hara Museum ARC, Gunma, Japan [ex.cat.] Seven Artists: Aspects of Contemporary Japanese Art, Santa Monica Museum of Art. Los Angeles, CA, USA [ex.cat.] 1992 Working with Nature: Traditional Thought in Contemporary Art from

Korea, Tate Gallery Liverpool, UK 1993 Lee Ufan, The Museum of Modern Art, Kamakura, Kanagawa, Japan [ex.cat.]

Koreans and Japanese alike point to my being an immigrant, a bohemian. Well, I myself am only a footloose man seeking after freedom. But one community makes a deserter of me, and the other one an intruder. Both seem to feel reluctant to accept me as an insider. — Lee Ufan |

Trans. Shigeo Tonoike and Hidetoshi Tomiyama, in *LEE UFAN*, Tokyo: Toshi Shuppan, 1993, p. 34.

[&]quot;The Painting of Lee Ufan," in Lee Ufan, Tokyo Gallery, Tokyo: Gallery Ueda, 1980, p. NA. (existing translation)

have remained essentially the same.

If his speech and writings were sometimes polemical, it was because he looked on the Japanese art world

with a critical eye, pointing out

what contemporary Japanese artists had either

forgotten or lost.

It was Lee who provided the theoretical

impetus for the Mono-ha (the "Object School") during the late 1960s and the beginning of the 1970s.

- Arata Tani

"The Presence Which Transcends Objectivity," trans. Tsuyoshi Aoki, in *LEE UFAN*, Tokyo: Toshi Shuppan, 1993, p. 213.

I know that the violence in Lee Ufan is only verbal and contained, but it always feels that it is about to erupt.

It is in the framework front of our eyes, within the fall of world order with the zones

of influence shifting from Japan, Korea, and finally to China. Michel Nuridsany

"Lee Ufan, An Openning," in *LEE UFAN*, Tokyo: Toshi Shuppan, 1993, p. 231. (original in French)

Lee Ufan is not an arranger of rocks nor a landscaper, but an internationally established contemporary artist, concerned with eliminating emotions from his art and evading mystification.

- Michel Nuridsany

"Lee Ufan, An Openning," in LEE UFAN, Tokyo: Toshi Shuppan, 1993, p. 235. (original in French)

Lee exposed himself to the conflict between Western reason and Eastern nature and later came to terms with this duality and applied it to his creative production; this was because he had faced the reality

by the Western style of modernism. — Haruo Sanda

of the Japanese art world being eroded

"Totetsu shita sekai wo joju | Lee Ufan ten" [Perfecting the World of Lucidity | Lee Ufan exhibition], Mainichi Shimbun, April 28, 1993

1994 Lee Ufan, National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea (Gwacheon, South Korea) [ex.cat.]

Lee Ufan: possible infinities, Fondazione Mudima, Milan, Italy [ex.cat.]

★Japanese Art after 1945: Scream Against the Sky, Yokohama Museum of Art. Kanagawa, Japan, Guggenheim Museum SoHo. New York, USA, [1995] San Francisco Museum of Modern Art, CA, USA, in association with the Center for the Arts at Yerba Buena Gardens, San Francisco, CA, USA [ex.cat.]

Matter and Perception 1970: Mono-ha and the Search for Fundamentals. The Museum of Fine Arts. Gifu. Japan [ex.cat.]

1997 Made in France 1947-1997, Centre Pompidou, Paris, France [ex.

Lee Ufan print works 1970-1998. Mitaka City Gallery of Art. Tokyo, Japan, Sapporo Art Museum, Hokkaido, Japan, Itami City Museum of Art, Hyogo, Japan, Ashikaga Museum of Art, Tochigi, Japan, [1999] Niigata City Art Museum, Japan [ex.

2000 3rd Shanghai Biennale, China [ex.cat.]

1998

3rd Gwangju Biennale, South Korea [ex.cat.]

A work of art must be the site of such a leap, a place where there is interactive mediation between self and other. Unlike modernist art, my work is not a closed,

self-contained object that reproduces the self. It is arranged as an open place

by means of a relationship between self and other. Lee Ufan

The Art of Encounter, trans. Stanley N. Anderson, London: Lisson Gallery, 2004, p. 14.

As the brush makes one point, the area around it begins to move and energy-filled air floats low over it. This exhilarating experience of illusion is what eventually made me a painter. Lee Ufan

The Art of Encounter, trans. Stanley N. Anderson, London: Lisson Gallery, 2004, p. 200.

Lee Ufan: Gemälde, 1973 bis 2001, Kunstmuseum Bonn, Germany [ex.cat.]

> Century City, Tate Modern, London, UK [ex.cat.] Mono-ha: School of Things, Kettle's Yard, Cambridge, UK [ex.cat.]

Whether expressive or suppressed in taking on the form of Asian action painting,

Lee Ufan's works are always controlled. [...] Deeply rooted in the Korean and Japanese tradition,

this admirer of Kant and Heidegger strives for a universal art language with a central concept

of "timelessness." — Thomas Kliemann

"Like a Bell Echoing in the Void," *General Anzeiger*, June 16–17, 2001. (original in German)

4th Asia Pacific Triennial of Contemporary Art, Brisbane, Australia

2003 Lee Ufan: The Search for Encounter, Samsung Museum of Modern Art, Seoul, South Korea [ex.cat.]

> Happiness: A Survival Guide for Art and Life, Mori Art Museum. Tokyo, Japan [ex.cat.]

Rimpa, The National Museum of Modern Art, Tokyo, Japan [ex.cat.] LEE UFAN, The Art of Margins, Yokohama Museum of Art, Kanagawa, Japan [ex.cat.]

Lee Ufan, Queensland Art Gallery, Brisbane, Australia Lee Ufan, Musée d'art moderne et contemporain, Saint-Étienne, France

Mono-ha Reconsidering, National Museum of Art, Osaka, Japan [ex.

2006 6th Gwangju Biennale, South Korea [ex.cat.]

52nd Venice Biennale, Italy [ex.cat.]

What Is Mono-ha?, TOKYO GALLERY + BTAP, Beijing, China [ex.

Elastic Taboos: Within the Korean World of Contemporary Art, Kunsthalle Wien, Vienna, Austria [ex.cat.]

Many authors focused on the artist's biography in defining his work as specifically Far Eastern. This was done from two vantage points. On the one hand, some European authors elucidated the salient features of Lee's oeuvre with reference to general, preconceived notions of Far Eastern art, virtually explaining it away as exotic and removing it from serious critical attention. On the other hand. there were writers from Japan and Korea who pursued a different agenda by emphasizing Lee's roots in Far Eastern tradition. Silke von Berswordt-Wallrabe

Lee Ufan: Encounters with the Other, Göttingen: Steidl, 2007, p. 9.

Lee Ufan, Royal Museums of Fine Arts of Belgium, Brussels [ex.

Lee Ufan: A Dialogue, Museum für Asiatische Kunst, Berlin,

Lee Ufan: Marking Infinity, Solomon R. Guggenheim Museum, New York, USA [ex.cat.]

> Yokohama Triennale 2011, Kanagawa, Japan [ex.cat.] 54th Venice Biennale, Italy [ex.cat.]

Lee's mature "ecstatic minimalism" manifested a transnational history of recent art, while the bare rigor and sensuality of his work made another, more immediate claim on the imagination. - Alexandra Munroe

"Stand still a Moment," in Lee Ufan: Marking Infinity, New York: Solomon R. Guggenheim

Requiem for the Sun: The Art of Mono-ha, Blum & Poe, Los Angeles, CA, USA [ex.cat.]

★Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde, The Museum of Modern Art. New York, USA [ex.cat.]

Lee Ufan: Dissonance, Capitole, Arles, France [ex.cat.]

★Re: Quest – Japanese Contemporary Art since the 1970s, Seoul National University Museum of Art, South Korea [ex.cat,] Prima Materia, Punta della Dogana, Venice, Italy [ex.cat.]

Lee Ufan Versailles, Palace of Versailles, France [ex.cat.]

Korean Beauty: Two Kinds of Nature, National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea (Seoul, South Korea) Other Primary Structures, Jewish Museum, New York, USA [ex.cat.] Simple Forms: Contemplating Beauty, Centre Pompidou-Metz, France, [2015] Mori Art Museum, Tokyo, Japan [ex.cat.] Lee Mingwei and His Relations, Mori Art Museum, Tokyo, Japan [ex.

56th Venice Biennale, Italy [ex.cat.]

Relatum is the immediate result of a highly concentrated action that comes to a head in one decisive moment.

- Silke von Berswordt-Wallrabe

onance Spaces," in Lee Ufan Museum, Kagawa: Fukutake Foundation, 2015, p. 75.

The proportions of the rectangles that Lee uses generally correspond to those of traditional French figurative pictures, a detail that clearly underscores the painter's physical interaction with the canvas.

- Silke von Berswordt-Wallrabe

"Resonance Spaces," in Lee Ufan Museum, Kagawa: Fukutake Foundation, 2015, p. 87.

When Process Becomes Form: Dansaekhwa and Korean Abstraction, Villa Empain, Brussels, Belgium [ex.cat.]

Lee Ufan: Presentiment, Centre de Création Contemporaine Olivier Debré, Tours, France [ex.cat.]

Lee Ufan, Ha Jung-woong Museum of Art, Gwangju, South

14e Biennale d'art contemporain de Lyon, France

★Japanorama: Nouveau regard sur la création contemporaine (Japanorama: A New Vision on Art since 1970), Centre Pompidou-Metz, France [ex.cat.]

Lee Ufan: Relatum - Stage, Serpentine Galleries, London, UK Lee Ufan: Open Dimension, Hirshhorn Museum and Sculpture 2019 Garden, Washington D.C., USA

Lee Ufan, Dia:Beacon, New York, USA

Lee Ufan. Habiter le temps, Centre Pompidou-Metz, France The Challenging Souls: Yves Klein, Lee Ufan, Ding Yi, Power Station

of Art, Shanghai, China [ex.cat.]

Collections

Brooklyn Museum, New York, USA Centre Pompidou, Paris, France Dia:Beacon, New York, USA Kröller-Müller Museum, Ede, the Netherlands Kunsthalle Zürich, Switzerland Kunstmuseum Bonn, Germany Leeum, Samsung Museum of Art, Seoul, South Korea Los Angeles County Museum of Art, CA, USA Mori Art Museum, Tokyo, Japan Museum of Contemporary Art, Tokyo, Japan The Museum of Modern Art. New York, USA National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea The National Museum of Modern Art, Kyoto, Japan The National Museum of Modern Art, Tokyo, Japan Nationalgalerie, Berlin, Germany Solomon R. Guggenheim Museum, New York, USA Staatsgalerie Stuttgart, Germany Städel Museum, Frankfurt am Main, Germany Tate London UK Tokyo Metropolitan Art Museum, Japan